

守る命・守られる命

～ウサギの世話を通して、体験したこと・学んだこと～

対象：3年生

教科：総合・道徳

関連する単元：道徳「コメット君をりっぱなもうどう犬に」（親切）
 「ありがとうチャンプ」（生命尊重）
 「生きているしるし」（生命尊重）
 「はたらく犬たち」

時間数：65時間

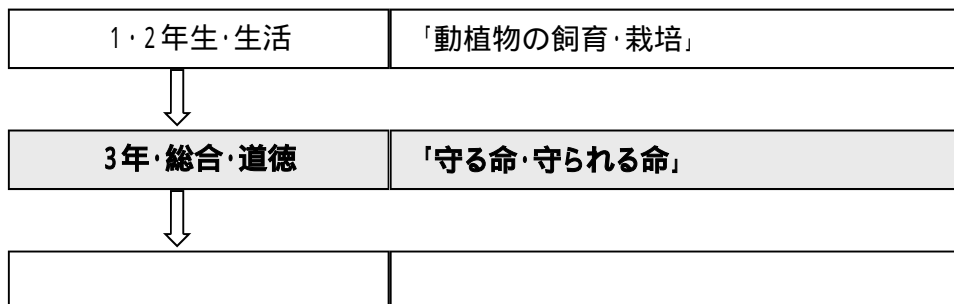
【単元の概要】

学習の背景

昨年度から、飼育委員会から引き継ぎ、飼育動物（ウサギ）の世話を3年生が担当することとなった。その活動は、総合的な学習の時間に位置づけている。また、テーマを「守る命・守られる命」とし、ウサギの飼育活動を通じた体験の中から発展させて、他の動物、人間を助ける動物などまで活動を広げ、生命尊重・自然界への興味関心を育てたいと考え、本単元を設定した。

単元の位置づけ

3年生になり、飼育活動を通して、命を大切にすることはとても大切であると考えた。その思いを大切に、深めさせるためには道徳の時間との関連が必要であると考え、総合的な学習の時間と連携させた。本単元は、子どもから出た考えを中心に組み立て、自分たちにできることは何か、人と動物が共存している意味を考えた。



単元のねらい

- ・ウサギの飼育活動をすることで生き物に直接ふれる機会を児童に多く与えることで情緒的な発達を促し、生命尊重の心を育てる。

- ・ウサギの飼育や観察を通して、生き物の変化や成長に触れ、どんな小さな生き物も自分たちと同じように生命をもって成長していることに気づく。
- ・ウサギの生態を図書室やインターネットを活用して調べ、自分に必要な情報を探し出す能力を身に付ける。
- ・動物に助けられている人間がいることに目を向ける。
- ・異学年の児童に、実践したことや経験したことを伝える。

概要

年間を通して、指導の節目に、獣医師・環境学習センターの先生・ボランティアの方に協力を頂いて指導した。4月の導入では、世話の仕方を獣医師さん、ウサギの特徴を環境学習センターの先生に、世話の手順・必要なエサなど世話をするための基礎となる知識を学習した。6月には発展させて、自分たちが命を守るという視点から「守られる」ということに目を向けさせ、パピーウォーカー（盲導犬候補の子犬を、飼育するボランティア）をされている方をゲストティーチャーに招いた。まとめでは、本単元で調べたことや感じたこと、学校の飼育動物が生き残る環境を守るために自分はどうかという提言を、2年生に対して発信した。

指導計画（全65時間扱い）

1 学期 導 入：13時間「ウサギってどんな生き物～調べたことを発表しよう」

- ・初めての世話の仕方を体験する。
- ・ウサギの特徴やどんなエサを食べるのかを知る。
- ・当番のローテーションを考える。
- ・ウサギについて知りたいことについて話し合う。
- ・ウサギの図鑑を作る。

1・2 学期 展 開：40時間「人間を助ける動物っているのかな～飼育動物作文コンクールに出品しよう」

- ・人間を助ける動物について話し合う。
- ・パピーウォーカーをしている方に話を聞く。
- ・人間を助ける動物の本を読み、感想を書く。
- ・夏休みのウサギの世話について考える。
- ・夏休みの世話の成果と課題を考える。
- ・働く犬について調べてまとめる。
- ・冬の飼育方法を考える。
- ・飼育動物作文コンクールに出品する。

3 学期 まとめ：12時間「みんなに知ってもらおう、マロン(ウサギの名前)のこと」

- ・テーマを決め、グループ分けをする。
- ・資料集めをする。
- ・発表する資料を作成する。
- ・発表会をする。

【環境意識を育成し実践行動へとむすびつけるために工夫した点】

実際にパピーウォーカーとしてボランティア活動されている方の話を聞く時間を取り入れた。(実際の臨場感を出させるため)
 ブラインドウォークなどの体験活動を取り入れた。
 引き継ぎのために、発表会を実施し、ゲストティーチャーにNPOの方を講師として招き、指導・講評を受けた。
 東京都の学校飼育動物モデル校として一年間の飼育活動を計画的に取り組み作文コンクールに出品した。

【単元・授業の流れと活動目標】

ウサギってどんな生き物(4月/5時間)

学習指導要領の対応

【活動目標】 ウサギがどのような生き物なのかを知り、自分たちが世話をするために必要な知識を学ぶ。

< 活動内容 >

< 指導、留意点 >

初めての世話の仕方を体験する。
 獣医の先生と一緒に、世話を体験する。
 順番をメモさせる。一人一人、ウサギの抱き方を体験する。飼育日誌の書き方を知る。
 ・ウサギの抱き方を、体験して正しくできるようにする。
 ・世話の順番をメモしたものと、実際の手順を書いたものを板書し、児童と確認する。
 ・飼育日誌を実際に書く。

ウサギの特徴やどんなエサを食べるのかを知る。ゲストティーチャーの話の大切なところをメモする。実際に、ウサギの好むエサを見る。食べやすい大きさについても調べる。
 ・ニンジン・キャベツなどを食べやすい大きさに切ってみる。
 ・実際に、エサを与えてみる。

当番のローテーションを考える。
 ・当番活動を組むには、どのようなことに配慮しなければならないかについて話し合う。
 ・役割分担を考える。
 ・当番の順番を決め、当番表に記入する。

ねらい: 飼育活動の流れを知り、ウサギの特徴を知る。

- ・事前に獣医師と打合せをする。
- ・飼育日誌を拡大して、全員に実物の日誌を一枚配布しておく。
- ・ウサギの抱き方を全員に体験させる時間を確保する。
- ・ウサギの抱き方がうまい児童を取り上げて、実践を見せる。

ねらい: ウサギの特徴やエサについて知る。

- ・聞き取りメモを用意する。
- ・実際の野菜を用意する。
- ・班の代表がエサを与えて、何が一番好きなのかについて確かめてみる。
- ・与えてはいけないうエサを最後に確認する。
- ・事前にゲストティーチャーと打合せをする。

ねらい: 友だちのできる事、自分のできる事を考えながら、楽しくウサギを世話することができるチームを考える。

- ・当番表を用意する。
- ・アレルギーのある児童を事前に保護者に聞いておく。
- ・何のために世話をしているのか教師自身が常に問い続け、児童に支援していく。

生活 P.34

国語 P.51

道徳 P.50

特別活動 P.35

導入(5時間)

ウサギについて調べよう (5月 / 8時間)

〔活動目標〕ウサギについて調べたことを図鑑にまとめる。

< 活動内容 >

< 指導、留意点 >

ウサギについて知りたいことについて話し合う。ウサギの体の仕組み、病気など、どのようなことについて知りたいのかについて話し合い、各自がこれから飼育活動に有効になるような知識を考え、まとめる。

ウサギの図鑑を作る
資料選びをする。

- ・図書、聞き取り、インターネットなどの中から、自分にとって有効なものを選択し、調べた結果をメモする。

資料選択とメモ作り

- ・自分が用意した資料の中から、必要な部分を選択し、メモしておく。

図鑑作り

- ・個人でこれまで調べたことや自分の考えを、他の人に、どのような図鑑を作ることで伝えるかを考え、図鑑を作る。

ねらい: これからの飼育活動の中で、自分たちがどのようなことを知りた
いかについて考える。

- ・知りたいことシートを配布する。
- ・病気、体の仕組み(耳・鼻・足など)・飼育に必要な道具などに分類して整理させる。
- ・それらが、飼育活動でどのような効果が期待できるのかを整理させる。
- ・まとめ用カードに記入させる。

ねらい: 調べる方法を選択し、知りたい事柄の資料を見つけることができる。

- ・インターネットで検索する場合は、マナーをきちんと伝えておく。
- ・調べる方法について児童がかたよってしまう可能性がある場合は、教師がいくつかの調べる方法を伝えておく。

ねらい: 多くの資料の中から、自分で使う資料を選択する力を身につける。

- ・事柄メモを用意しておく。
- ・友だちのメモを活用してもよいというきまりを作っておく。
- ・事柄メモは、最低6枚記入するように目標を立てておく。

ねらい: 伝えるための手法(図鑑のレイアウト)を考え、工夫して作る。

- ・発表会を設定する。
(例)保護者、学年間、クラス間
- ・伝えたいことを整理するように、助言する。
- ・備品作成に必要な材料を用意する。
- ・発表の練習をさせる。

総合 P.14

国語 P.57

総合 P.39

国語 P.51

総合 P.35

導入 (8時間)

調べたことを発表しよう 人間を助ける動物っているのかな (6月/6時間)

〔活動目標〕 自分たちで調べたことを、伝えたい相手に発信する。
人間を助ける動物がいることを知る。

< 活動内容 >

< 指導、留意点 >

「調べたことを発表しよう」
 図鑑発表会
 ウサギのことについて調べたことや自分の考えを発表会で他者に伝える。

ねらい: 調べたことや自分の考えを他者に発信する。

- ・発表会の進行をする。
- ・発表会后、これまでの学習の各自の感想を聞く。
- ・自分たちの飼育活動についても聞き、人間が逆に動物に助けられている場面があることにも目を向けさせる。

国語 P.54

「人間を助ける動物っているのかな」
 人間を助ける動物について話し合う

ねらい: 人間を助ける動物がいることに気づく。

- ・盲導犬、聴導犬の活躍しているビデオを用意し、視聴させる。
- ・感想カードを用意し、記入させる。

パピーウォーカーをしている方に話を聞く。

ねらい: パピーウォーカーとは何かについて知り、盲導犬について理解を深める。

- ・ゲストティーチャーを招いて、実際の活動の話聞き、臨場感を持たせる。
- ・聞き取りメモを用意し、書かせるのもよい。
- ・事前に、道徳「コメット君をりっぱなもうどう犬に」を指導しておく。

人間を助ける動物の本を読み、感想を書く。
 盲導犬と人間との触れ合いについて書かれていた著書を読み、感動したこと、考えさせられたことなどについて作文にまとめる。

ねらい: 著書を読み、感動したことを作文表現する。

- ・どのような場面に感動したのかを事前に数人に当て、著書を振り返らせる。
- ・書けない児童には、書きたいことを箇条書きにして、文をつなげるように助言する。

国語 P.62

夏休みのウサギの世話について考えよう (7月 / 5時間)

〔活動目標〕 夏休みの飼育活動を成功させるように計画する。

< 活動内容 >

< 指導、留意点 >

展開 (5時間)

夏の間の飼育方法の確認
 獣医の先生の話聞き、ウサギの夏の暑さをどのように乗り切るかについて考える。
 ・温度や日当たりなどの環境をどのようにするのか？
 ・エサはどのくらい与えればよいのか？
 ・水分の量や運動量などを質問する。

当番の仕事分担
 夏休み期間中の当番人数、活動時間などをどのようにして決めるかについて考える。
 ・どの曜日に世話をするか。
 ・一人が何回世話をするか。
 ・ウサギの健康状態をどのように伝えるか。
 ・当番ボランティアの募集の仕方考える。

ウサギのエサについて考える。
 給食がなくなり、エサをどのように調達すればよいのかについて考える。
 ・ウサギのエサをどのようにして、あつめようか？
 ・八百屋やスーパーマーケットにお願いに行く。

ねらい: 自分たちで、ウサギの命を守るという自覚をもつ。
 ・事前に質問事項を児童に考えさせる。
 ・事前に獣医師さんと打合せをし、児童の質問事項を伝えておく。

ねらい: 毎日、動物を世話することの大切さに気づかせる。
 ・カレンダーを用意する。
 ・当番表を用意する。
 ・他の学年にどのようなお願いをするか、だれにボランティアを頼むかを考える。

ねらい: ウサギのエサをどのように集めるかについて考える。
 ・スーパーや八百屋などで、キャベツなどの葉っぱを廃棄する部分をいただけるのかについて、事前に交渉しておく。
 ・保護者に事前に、料理で使わない、野菜の皮などを当番の時に児童に持たせるように伝えておく。
 ・児童に、どのような方法でウサギのエサを調達できるかについて考えさせる。

道徳 P.51

総合 P.16

夏休みの世話の成果と課題を考えよう (9月 / 5時間)

〔活動目標〕 飼育動物の世話をした成果と課題について考え、次年度の担当学年に伝える。

< 活動内容 >

< 指導、留意点 >

展開 (5時間)

夏休みの世話を体験したことについて話し合う。
 生活班に分かれて、夏休みの飼育活動について振り返らせ、話し合う。話し合いでは、以下のことについて検討する。

ねらい: 自分たちで世話をし、よかったところ、むずかしかったところについて考える。
 ・4つの観点のワークシートを班の分用意しておく。

- ・ウサギの様子(体調管理など)
- ・エサについて
- ・飼育日誌について
- ・大変困ったこと

夏休みのウサギの生活新聞を書くグループに分かれて、夏休みの世話について自分たちで話し合ったことを、他の人に新聞で伝えるためには、どのようなものが必要かを考えてまとめる。

みんなに伝えよう！
夏休みの世話で感じたことについて、自分の考えを、発表会で他者に伝える。

- ・どのくらい水を飲んだかを記録させておく。
- ・温度管理をして、水分量が変わるかについて調べておく。

ねらい：伝えるための情報を整理し、工夫して作る。

- (例) 学年間、低学年
- ・伝えたいことを整理するように助言する。
 - ・新聞のレイアウトを考えさせる。
 - ・備品作成に必要な材料を用意する。
 - ・発表の練習をさせる。

ねらい：世話をして感じたことを他者に発信する。

- ・発表会の進行をする。
- ・発表会后、これまでの学習の各自の感想を聞く(または書かせる)。

人間を助ける動物について知ろう(10月/6時間)

(活動目標) 人間を助ける動物(犬)について興味・関心をもち、調べることができる。

< 活動内容 >

< 指導、留意点 >

ブラインドウォークを体験する。
実際に、アイマスクをして歩くことと、普段のように歩くことを比較させて、意見を発表し合う。

盲導犬について知る
盲導犬の活躍するビデオを見て、盲導犬の特徴を知る。盲導犬が、人間にとってどんな手助けをし、身体的な面、精神的な面においてどれだけ重要なのかを考える。

働く犬について取材しよう
誰に聞けば働く犬について分かるかを質問の内容を考え、検討する。

ねらい：視覚障害者の方に対する理解を深める。

- ・アイマスクを用意する。
- ・点字などを用意して触れさせる。
- ・実際に視覚障害者の方に、点字を使って読んでいただくと、その速さに関心を持たせることができる。

ねらい：盲導犬の特徴について知り、理解を深める。

- ・盲導犬が活躍しているビデオを用意する。
- ・視覚障害者の方に直接話を聞くのも効果がある。
- ・ビデオで見て学んだことをワークシートにまとめる。
- ・他に、どんな人間を助ける犬がいるかについても目を向けさせる。

ねらい：働く犬がどのくらい活躍しているかを知る。

学習計画を立てる
12月からの学習を考えていく。どのよう
なまとめをしていきたいかを考える。

- ・児童の質問内容をまとめ、ゲストティー
チャーと打合せをしておく。
- ・家に帰って、家の人にもインタビューを
しておく。
- ・どこかで盲導犬を見たことがある児童に
は、想起させる。

ねらい：12月からどのような学習を進め
ていきたいかについて考える

働く犬について調べてまとめよう（11・12月 / 11時間）

〔活動目標〕働く犬について調べたことをまとめ、発信する。

< 活動内容 >

< 指導、留意点 >

グループでテーマを決める。
グループを決め、どのような種類の働く
犬について調べるかをグループで考える。

資料集めをする。
学校図書、地域の図書館、インターネット
などの情報源から、必要な資料を集める。

グループで調べたことをまとめる。
資料の中から伝えたいことを選択し、
他の人にどのような形で伝えるかを
考え、必要なものを用意する。

グループ発表をしよう
働く犬の役割について考えたこと、調べ
たことを、発表会で他者に伝える。

ねらい：グループでどのような種類の働く
犬について調べるのかを決める。

- ・ワークシートを用意する。

ねらい：グループで必要な情報を集め、
選択することができる。

- ・インターネットを活用するときのモラルに
ついて事前に指導する。
- ・グループで図書、インターネットなど分担
することも有効であることを伝える。

ねらい：伝えるための手法を考え、工夫
する。

- ・発表会を設定する。
(例)グループ間、他学年、保護者
- ・伝えたいことを整理するように助言する。
- ・伝える手法を助言する。
(例)ペープサート、新聞、紙芝居など
- ・備品作成に必要な材料を用意する。
- ・発表の練習をさせる。

ねらい：調べたことや自分の考えを他者
に発信する。

- ・発表会の進行をする。
- ・発表会后、これまでの学習の各自の感
想を聞く。
- ・働く犬について、自分たちもかかわるこ
とができることについてもまとめる。

冬の飼育方法を考えよう（12月 / 2時間）

〔活動目標〕ウサギが心地よく過ごせる環境を作ろう。

< 活動内容 >

冬の間の飼育方法の確認・エサの確認
 冬の間、ゲージに毛布などをかけることが
 なぜ大切なのかを考える。ゲージをどこに
 置くと、ウサギが落ち着くのかを考える。
 自然界に住んでいるウサギと飼われ
 ているウサギとの違いについても考える。

当番の仕事分担
 冬休み期間中の当番の人数、活動時間
 などをどのようにして決めるかについて
 考える。
 ・どの曜日に世話をするか。
 ・一人何回世話をするか。
 ・ウサギの健康状態をどのように伝えるか。
 ・当番ボランティアの募集の仕方を考える。

< 指導、留意点 >

ねらい：飼育されているウサギと自然の
 ウサギの違いに気づかせる。
 ・ワークシートを用意する。
 ・獣医師に夏場と冬場の世話で気をつけ
 る点の違いについて話してもらうのもよい。

ねらい：動物を世話することの大切さに
 気づかせ、責任感をもたせる。
 ・カレンダーを用意する。
 ・当番表を用意する。
 ・他の学年にどのようなお願いをするか、
 だれにボランティアを頼むかを考える。
 ・きちんと世話ができたのかの点検表を
 用意する。

道徳 P.52

展開
 (2時間)

飼育動物作文コンクールに出品しよう（1月 / 5時間）

〔活動目標〕1年間の飼育活動で感じたこと・学んだことを作文に書き、
 発信する。

< 活動内容 >

作文メモを作成する。
 飼育活動をしていて感じたこと、学んだこ
 となどを、箇条書きにする。箇条書きにし
 たものを、どのような順序で書くかを組み
 立てる。

作文を書く
 組み立てメモを活用して、伝えたいことか
 らを中心に作文を書く。

< 指導、留意点 >

ねらい：飼育活動を通して、相手に伝え
 たいことを考える。
 ・組み立てメモを用意する。
 ・作文でまとめることを伝える。

ねらい：飼育活動を通して、他者に伝え
 ておきたいことを作文にする。
 ・作文用紙を準備する。
 ・国語辞典を用意しておく。
 ・コンクールに出品することを伝え、意欲
 づけをする。

国語 P.57

展開
 (5時間)

みんなに知ってもらおう、マロン（ウサギの名前）のこと（2・3月 / 12時間）

〔活動目標〕1年間の学習の成果を発表し、次年度への引き継ぎができる。

< 活動内容 >

< 指導、留意点 >

グループでテーマを決める。
マロンのことについて、何を伝えたいのかを考え、どのような方式で発表するのかについて考える。

グループで資料の集め方を考える。
学校図書、図書館、インターネット、取材や日誌をふり返ることをするなど、だが、どのような方法で資料を集めるかの役割分担をする。

資料集めをする。
グループ内で役割分担したことに基いて、資料を集め、必要な情報を選択する。
・マロンのエサについて
・マロンの世話の手順や飼育日誌の書き方について
・引き継ぎの時に、絶対に伝えなければならないことは？

資料選択をしてメモを作る。
グループで調べた内容を精選して、活用するもののみを選択する。

発表する資料を作成する。
グループに分かれて、これまで学習してきた成果や、世話の仕方を自分たちの言葉でまとめ、他の人にどのような形で伝えるのかを考え、必要なものを作る。

発表会をする。
飼育活動の成果や伝えたいことで、自分たちがまとめたことを発表会で他者（下級生）に伝える。

ねらい：次年度への引き継ぎのために、自分たちに何ができるのかを考える。

・ワークシートを用意する。

ねらい：調べたいことに関する資料の集め方を考える。

・地域の図書館と連絡を取り、関連資料を事前に貸し出ししてもらう。

ねらい：まとめるために必要な資料を集めることができる。

・インターネットを活用する際のモラルを再度指導する。

ねらい：グループで必要な資料を選択できる。

ねらい：伝えるための手法を考え、工夫して作る。

・発表会を設定する。（引き継ぎ学年へ）
・伝えたいことを整理するように助言する。
・伝える手法を助言する。
（例）劇、ペープサート、紙芝居など
・備品作成に必要な材料を用意する。
・発表の練習をさせる。

ねらい：1年間の成果と飼育活動の大切さを他者に発信する。


・発表会の進行をする。
・下学年の先生方と発表会の打合せをする。
・ゲストティーチャーを迎え、1年間の成果に対して講評をいただく。

学習の効果・児童の変化について

- ・毎朝、ゲージにいるマロンを観察して、体調やエサのことなどを報告するようになった。
 - ・校外を歩いていると、体の不自由な方を見ると意識するようになった。
 - ・友だちとの言い争いが少なくなった。
 - ・自分たちが学習したことを他者に伝えたいという学習意欲が向上した。
 - ・盲導犬や聴導犬などの募金活動などを積極的に行っていた。
 - ・自分たちで、マロンのエサを確保しようという意識が出た。
 - ・生き物を大切に、人間と共に生きているという規範意識が育った。
- (児童の作文やワークシート、観察カードより)

しいく にっし
飼育当番日誌

渋谷区立上原小学校

月	日 ()	記録者
天気	☀ ☁ ☂ ☃	暑い 寒い ぽかぽか 涼しい
気候	さわやか じめじめ カラカラ 風強し	
当番		

せわ きろく
お世話の記録

お世話 チェック	給食室前の野菜チェック すのこあらい シートかえ
	えさやり みずかえ ブラッシング あとかたづけ
健康 チェック	マロン
【気がついたこと、次の人に伝えたいこと】	
<hr/> <hr/>	

